

資料3-3

ひがし北海道に計画中の歩く旅の道(トレイル)は、日本を代表する3つの国立公園をつなぎます。どこまでも広大な湿原、酪農地帯や畑作地帯。国内有数のカルデラ湖。地球の鼓動を感じる火山。多くの特徴的な山々や豊かな海など、多様な景観を楽しめます。縄文時代から北海道開拓へと続く人々の暮らしや歴史・文化があり、そこに住まう動物や人々の営みとの出会いがあります。太平洋、オホーツク海、根室海峡という三つの海を繋いで、中央に連なる火山帯を越え、特色の異なるエリアをひとつずつ数日間かけて歩きます。ひがし北海道の大きさを体感できる、全長350kmを越える、長く歩く旅ができる魅力に富んだロングトレイルです。

知床自然センター

知床世界遺産センター

羅臼岳

知床峠

知床羅臼V C

らうす「しおかぜ公園」

オシンコシンの滝

世界自然遺産にも登録されている知床国立公園は、火山活動や流氷などによって形成された美しく雄大な景観と、野生生物の豊かさに特徴づけられます。特にヒグマやシャチなどの大型哺乳類や、絶滅の恐れがある大型の猛禽類も多く生息し、それらを頂点として、様々な野生動物が相互に関係しあい、色濃く息づいています。

● 天に続く道

北海道東部に位置する阿寒摩周国立公園の基盤は、千島火山帯の活動によってできた阿寒・屈斜路・摩周の3つのカルデラ地形です。北海道で最も歴史のある国立公園の一つで、公園区域の大部分が亜寒帯性の針葉樹林を中心とする天然林に被われ、国立公園の中でも原始的な姿を有しているといわれています。

至 オンネトー

雄阿寒岳

阿寒湖温泉
阿寒湖 EMC

コッタロ湿原展望台○

細岡 VL

細岡展望台

北斗遺跡

● 釧路「幣舞公園」

釧路濕原國立公園

日本最大の湿原と
 壮大な蛇行河川、それを育む森

日本で最初のラムサール条約登録湿地であり、湿原を中心とする初の国立公園です。北海道東部を流れる網走川とその支流を抱く日本最大の網走湿原及び湿原を取り囲む丘陵地からなります。手つかずの広大な水平的景観はこの地の何よりの魅力です。また、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ多くの動植物の貴重な生息地となっています。

たんちょう釧路空港

参考：<https://www.env.go.jp/park/kushiro/point/index.html>

2. 「ロングトレイル」の概要

(1) 名称 **北海道東トレイル** (略：道東トレイル) 英名：Hokkaido East Trail (HET)

総距離約410km ※弟子屈～阿寒・オンネトーを結ぶ自転車推奨区間(60km)を含む

知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園と地域を結ぶ、**長く一本に繋がった歩く旅の道。**

(2) 開通日 2024年10月5日(土)

(3) ロゴマーク

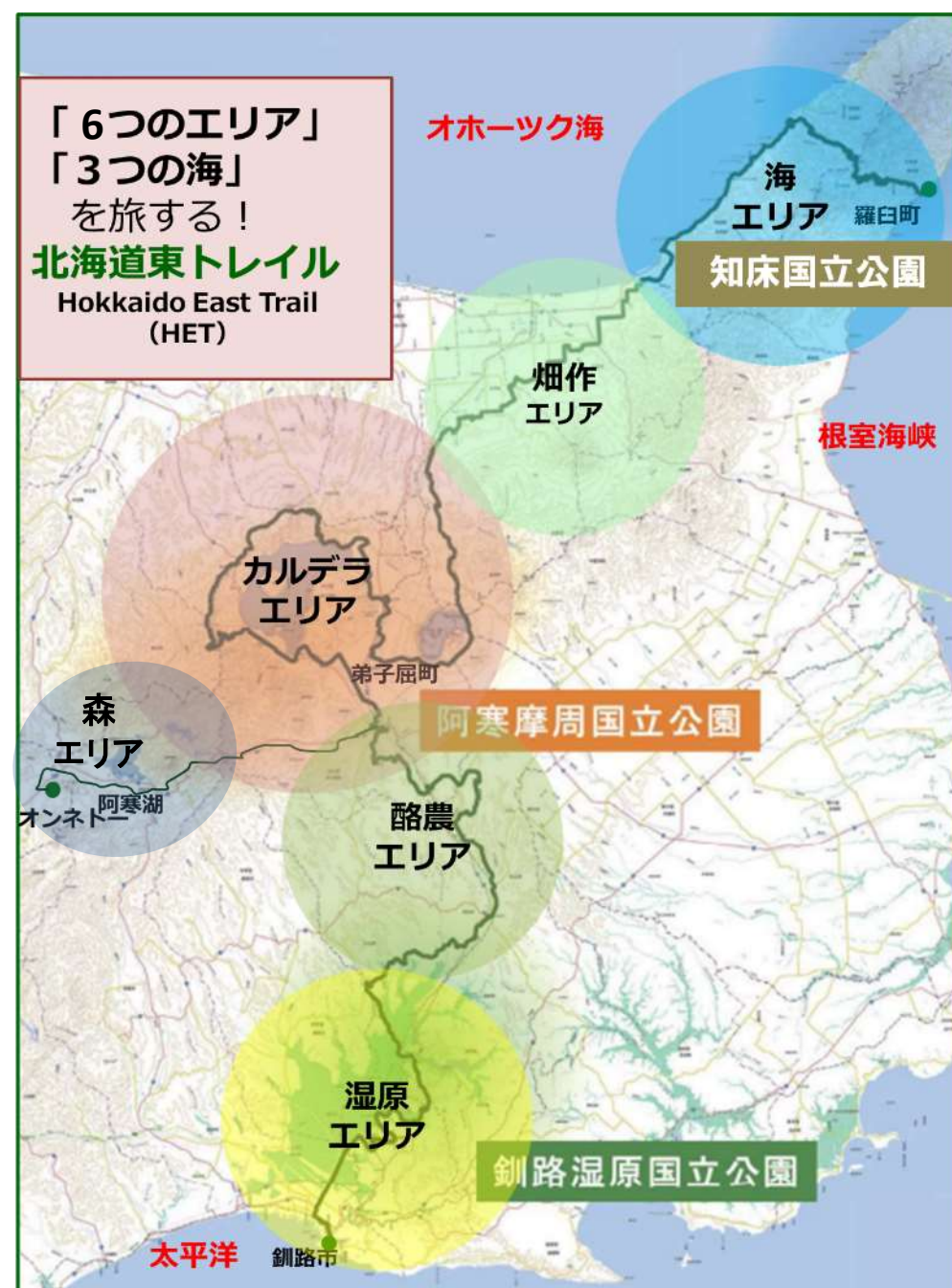


(4) 管理運営組織

弟子屈町川湯温泉に位置する**川湯ビジターセンター**内に、**トレイル運営事務局**として北海道東トレイル 川湯トレイルオフィスを置く。

運営事務局は、ルート沿線の**9つの協力施設と連携し利用者に対する情報提供**を行う。
運営事務局は、一般社団法人トレイルブレイズ ハイキング研究所が担う。

(5) 主な特徴



◆北海道から遠く離れたカムチャツカ半島から千島火山帯に続く、知床、屈斜路、阿寒に連なる火山地帯を横断、人々の暮らしや文化・歴史に触れながら歩く道。

- ① **世界自然遺産知床の「海」**
- ② **斜里岳の裾野に広がる広大な「畑作」**
- ③ **日本最大の屈斜路「カルデラ」**
- ④ **釧路川流域の山肌に永遠と続く「酪農」**
- ⑤ **日本最大の釧路「湿原」**
- ⑥ **原生的景観を有する神秘の「森」**

◆長く1本に繋がった道は人々を魅了し、歩くことを目的に人々が訪れる。

(6) これまでの経緯

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトの重点取組に位置づけ

・2016年

12月 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト
ステップアッププログラム**2020**がスタート
ロングトレイルの検討を開始

・2021年

2月 ステップアッププログラム**2025**がスタート
阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想を阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会で策定
(3空港・3公園を繋ぐネットワークを推進)

・2022年

8月 3つの国立公園とまちを繋ぐ**ロングトレイル調査・検討開始**

・2023年

9月 トレイル名称決定「北海道東トレイル」
10月 ハイキングイベント開催(釧路、屈斜路、清里)

・2024年

2月 ロゴマーク決定
7月 ルート確定、トレイル憲章決定、運営計画策定
9月 トレイル運営事務局「川湯トレイルオフィス」開設

10月「北海道東トレイル」全線開通！

(7) 地域トレイル

① **屈斜路カルデラトレイル**

(美幌地区三町広域観光協議会：美幌町・津別町・大空町)

② **摩周・屈斜路トレイル**

(弟子屈町：NPOてしかがトレイルクラブ)

③ **裏摩周外輪山神の子池トレイル** (清里町・きよさと観光協会)

(8) 広域連携

国：環境省、国土交通省(北海道開発局・北海道運輸局)
林野庁(根釧西部・根釧東部・網走南部・十勝東部森林管理署)
道：北海道(釧路・オホーツク・十勝総合振興局、根室振興局)

関係自治体：14市町村

釧路市、弟子屈町、標茶町、中標津町、清里町、小清水町、大空町、美幌町、津別町、足寄町、釧路町、鶴居村、斜里町、羅臼町

3. 「北海道東トレイル」運営体制

運営体制

北海道東トレイル運営体制

川湯ビジターセンター内

情報発信拠点

環境省
阿寒摩周国立公園
管理事務所

情報共有・連携・協力

- ・トレイル推進業務委託
- ・トレイルオフィス機能委託

北海道東トレイル 川湯トレイルオフィス

【トレイル運営事務局】
(一社)トレイルブレイズ ハイキング研究所 道東支部

情報共有・連携・協力

- ・ルート案内、観光情報等
- ・窓口対応連携
- ・利用者サポート連携

弟子屈町
摩周湖観光協会
自然公園財団

各種情報・共有

北海道東トレイル協力施設

施設名

オンネトー 野営場 休憩舎	阿寒湖畔 エコ ミュージアム センター	細 岡 ビクターズ ラウンジ	塘路湖 エコ ミュージアム センター	川湯 ビジターセン ター	和琴 フィールド ハウス	知床 世界遺産 センター	知床 自然センター	知床羅臼 ビジター センター
足寄町	阿寒湖 管理官事務所	釧路町	釧路湿原 保護官事務所	阿寒摩周 国立公園 管理事務所	阿寒摩周 国立公園 管理事務所	ウトロ 保護官事務所	斜里町	羅臼 保護官事務所

訪れるハイカーの窓口対応：ルート案内、地域観光案内（飲食店等）、トレイル利用に関する注意喚起、熊出没情報
共通サービス：熊スプレー・鈴レンタル、トレイルマップ・関連グッズ販売など

道情報の提供

利用状況の情報提供

構成員

釧路自然環境事務所

北海道開発局
釧路開発建設部・網走開発建設部・
帯広開発建設部

北海道森林管理局
根釧西部・東部・網走南部・
十勝東部森林管理署

北海道
根室振興局
釧路・オホーツク・十勝総合振興局

北海道東トレイル運営事務局

地域連絡会（14市町村）

地域連絡会開催（2回/年）

- ・歩道状態、各種情報提供
- ・地域振興

南西部

釧路市 ※2
鶴居村
釧路町
釧路市 ※3
足寄町
標茶町

※2 釧路市＝産業振興部観光振興室（釧路市街） ※3 釧路市＝産業振興部阿寒観光振興課（阿寒湖畔）

北部

弟子屈町
津別町
美幌町
大空町
小清水町
中標津町
清里町
斜里町
羅臼町

オブザーバー

北海道運輸局

4-1. 「北海道東トレイル」の目的と期待される効果

道東の大自然と広大な大地を南北に貫く一本の旅の道・・・

北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」

◆取組目的

- ① **世界に通用するロングトレイルを道東につくる**
北海道のブランド力と道東の自然の魅力を活かし、管理された世界水準のロングトレイルルートとしてブランド化、世界の目的地になることを目指して磨き上げを図る
- ② **新たな観光価値の創出**
地域（点）から広域連携（面）の取組みで誘客を推進
地域のトレイルの取組みを広域連携で新たな価値を創出
- ③ **トレイルを中心とした新たな利用の推進**
長く一本に繋がったロングトレイルは、サイクリングやカヌーなど、他のアクティビティと組み合わせることで利用拡大
- ④ **新しい観光スタイルの創出**
歩くことを目的とした人々の受入
- ⑤ **脱炭素の推進**
エンジンなど動力を使わない楽しみ方の提供
- ⑥ **地域活性化と地域全体のブランド力向上**

◆期待される効果（狙い）

- ① **新たな観光ビジネスの創出**
旅行会社によるトレイルツアーや車両回送サービスなど
例：知床、阿寒摩周、釧路湿原、3つの国立公園を歩く旅
- ② **新たな宿泊サービスの創出**
宿泊得点として出発地点やゴール地点まで送迎など
例：歩く人を対象とした送迎付き宿泊パック
- ③ **新たな観光コンテンツの創出**
JR（電車）やサイクリング、カヌー等を組み合わせた、新コンテンツが生まれる
- ④ **滞在の長期化に繋がる**
歩くスピードは遅く、数日間かけて同様のエリアを歩く。
住民との交流を楽しむ
- ⑤ **まちのイメージアップ、交流・関係人口増加に繋がる**
まちの魅力を発見、地域住民と旅人（ハイカー）の交流
- ⑥ **移住やリピーターに繋がる**
地域の方とハイカーの交流により地域のファンが増加

4-2. これまでの取組みと今後（令和7年度）の取組み

道東の大自然と広大な大地を南北に貫く一本の旅の道・・・

北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」

◆これまでの取組み

① **トレイルルート設定（長く一本繋がる旅の道）**

- ・ ルート選定、全線の徒歩調査実施
- ・ 関係自治体向け説明会や地域ガイドとの交流会開催
- ・ トレイル勉強会やワークショップ開催

② **運営体制の構築**

- ・ 歩く方々（ハイカー）のサポート窓口
- ・ トレイル運営事務局を設置（川湯ビジターセンター内）
- ・ 国、道、14市町村連携の枠組み構築
- ・ 北海道東トレイル運営計画策定

③ **ブランド化**

- ・ 3つの国立公園と6つの特色あるエリアの魅力を形に！
- ・ トレイル憲章、ロゴマーク制作

④ **ブランディング**

- ・ 北海道東トレイル運営事務局の専用サイト立上げ
- ・ 情報一元化と発信
- ・ トレイル利用環境の向上

⑤ **プロモーション**

- ・ インバウンドツアーを手がける旅行者を対象としたFAMツアー開催
- ・ 各種商談会等でのPR

◆今後（令和7年度）の取組み

- ・ トレイルルートに関わる、国、道、14市町村による**地域連絡会開催（継続）年2回**
- ・ ビックデータを活用した**利用状況の把握**
- ・ **運営体制強化**
（地域トレイルとの連携や協力施設との関係強化）
- ・ **地域住民への周知や理解促進**
- ・ 利用者向け**車両回送サービスの検討**
- ・ **インタープリテーション全体計画策定**
- ・ 旅行会社と連携した**インバウンドツアー造成・販売**
- ・ 海外インフルエンサーやメディアを活用した情報発信

（継続的な取り組み）

- ・ **リスクマネジメントに基づく運営体制づくり**
難易度・危険度等、リスク等の見える化
情報の一元化と適性配信
- ・ **利用上の注意喚起を徹底**
ヒグマ対策
 - ・ 出会わないようにする
 - ・ 出会ってしまったとき**畑や牧草地など私有地への侵入対策**



北海道東トレイル憲章

2024年10月、「北海道東トレイル」が誕生しました。

本州とは生物相も大きく異なる北海道には、雄大で貴重な自然がいまなお多く存在します。なかでも「道東」は、釧路湿原、阿寒摩周、知床、3つの個性的な国立公園を備える特別なエリアです。

北海道東トレイルは、全長約410km。美しくも厳しい山、川、海、湖、森林や湿原を越え、道東ならではの動植物たちに出会い、脈々と続く人の営みである広大な酪農・畑作地帯を眺めながら歩くロングトレイルです。

この道は、行政機関、地域住民・事業者、そしてこの道を歩くハイカーなど、それぞれの責任と協働があって未来へ繋いでいくことが可能になります。多様で広域な連携に必要な理念を、このトレイルに関わるすべての人々と共有するために、ここに6つの憲章を定めます。

- 1.この道は、道東の多彩で多様な風景と風土を楽しむ道。
- 2.この道は、人と自然のあるべき関係を考える学びの道。
- 3.この道は、この土地の自然・歴史・文化を敬い尊ぶ道。
- 4.この道は、たぐいまれな道東の豊かさを未来へ繋ぐ道。
- 5.この道は、地域の人々とハイカーがここを重ねる道。
- 6.この道は、ここに关わるすべての仲間が共に育てる道。

ロングトレイルは人間の営みの原点である「歩く」行為を通し、さまざまな「原点」に立ち返る旅路です。それは、自然＝[環境の原点]、風土＝[歴史の原点]、そして私＝[人間の原点]を訪ね探す旅でもあります。風の人と土の人が織りなす旅の舞台、「北海道東トレイル」が、人と自然の幸福な未来を指し示す、希望の道しるべになることを心より願います。